



## 2012 年度 未踏 IT 人材発掘・育成事業 採択案件評価書

### 1. 担当PM

プロジェクトマネージャー： 藤井 彰人 PM  
(グーグル株式会社 エンタープライズ部門  
シニア プロダクト マーケティング マネージャー)

### 2. 採択者氏名

チーフクリエイター: 安川 要平 (フリーランス)  
コクリエイター: 比嘉 正栄 (フリーランス)

### 3. 委託金支払額

1,792,000 円

### 4. テーマ名

思いを叶える視覚駆動バケツリストの開発

### 5. 関連Webサイト

なし

### 6. テーマ概要

本提案では、やりたい事リスト (Bucket List) を視覚的に管理するウェブサービスを開発する。具体的には、行きたい場所や会いたい人、作りたいモノなどを、画像中心に管理できるようにして、自分が本当に「やりたい! (want)」と願っていることを、ワクワクする気持ちで取り組めるようにサポートするウェブサービスである。画像を中心にして Bucket List を管理することで、「やらなくてはいけない」といったネガティブなイメージを含ませずに、「やりたい! 」というポジティブな気持ちを後押しすることを目指す

す。

本提案の特長は、画像を中心にしたウェブサービスであることから、言語の壁を超えて、人とモノの興味・関心を繋げられることである。この特長から、国際展開を積極的に狙っていくことが可能である。また、例えば「ヨガをやりたい」と考えているユーザに対して、近所のヨガ体験教室の広告画像を示すことによって、ユーザと広告主の需要と供給をマッチングさせるビジネス展開も期待できる。

## 7. 採択理由

視覚に訴えるバケッリストサービスの開発というとてもシンプルな提案であり、既出他サービスとの類似部分が存在しているともいえるが、提案にあるような、ユーザの未来の情報である”want”のみに特化し、ユーザビリティが高く、かつ視覚的なサービスを中心に実現しているものは Global にも見当たらない。ユーザ視点で、リッチなユーザエクスペリエンスを提供するサービスを実現できれば、その発展性は、提案内容がシンプルなものだけにグローバルに考えても、高いといえる。

加えて、提案に対するクリエイターの熱い思いが感じられ、未踏プロジェクトとして採択するに相応しい提案であると判断した。

## 8. 開発目標

本プロジェクトの目標は、バケッリストを簡単に作成・管理・共有するために最適なサービスを提供する事であった。そのために、次のような機能を実装することにした。

- Extension やブックマークレットで、すぐにバケッリストを作成できる。
- リスト形式やタイル形式で、簡単にバケッリストを見返すことができる。
- 公開されているバケッリストやそれが実現されていく過程を共有できる。

これらの機能を実装することで、図 1 のような、誰でも簡単にバケッリストを作成・管理・共有できるプラットフォームの構築を目指した。

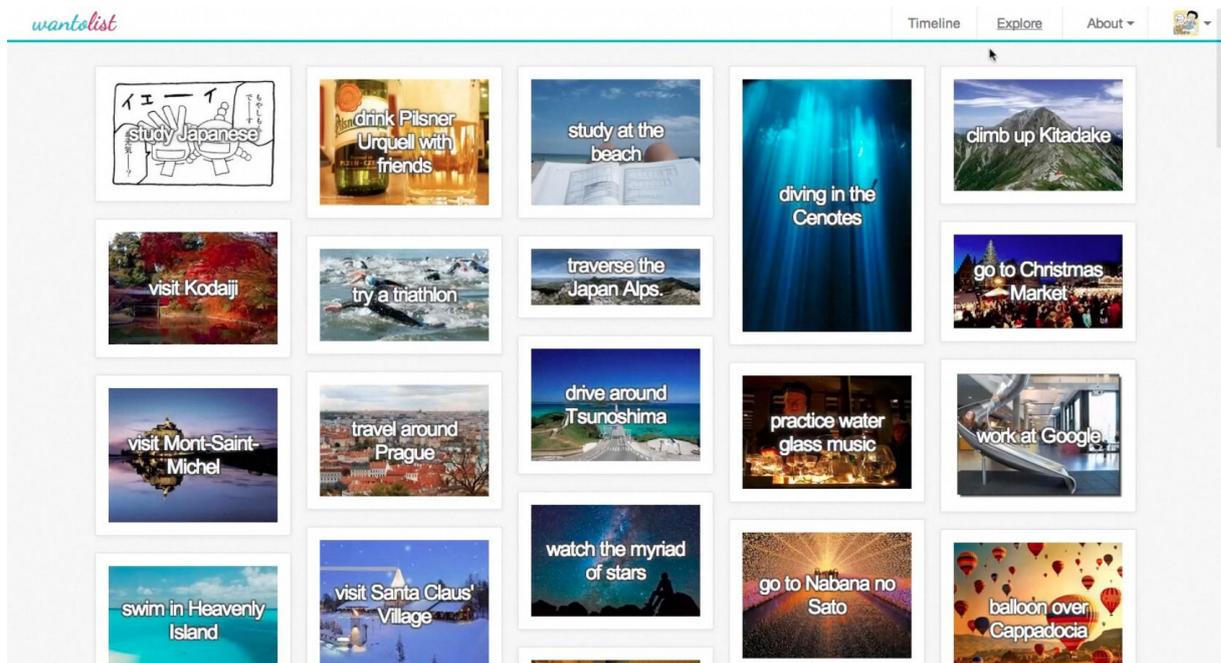


図 1 バケットリストを作成・管理・共有できるサービス

## 9. 進捗概要

最終的に以下に示すようなサービスを構築・運用するに至った。

### バケットリストを作成する

ユーザは、ウェブサービスから直接バケットリストを作成出来る(図 2)だけでなく、ウェブブラウザの拡張機能やブックマークレットを使ったり(図 3)、また、API を組み合わせて既存のモバイルアプリから作成したりすることもできる(図 4)。



図 2 ウェブサービスからバケットリストを作成



図 3 拡張機能 (左) やブックマークレット (右) でバケットリストを作成

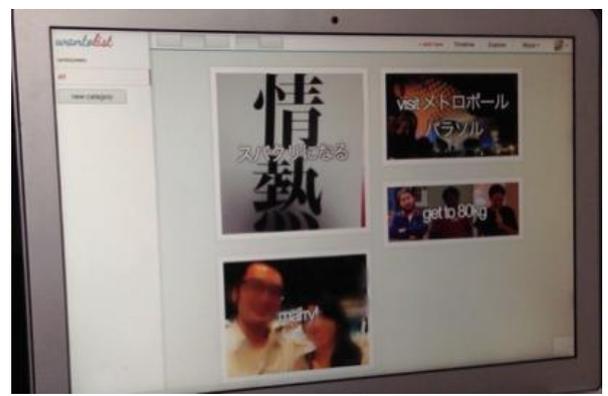


図 4 写真投稿アプリ (Instagram) からバケットリストを作成

### バケットリストを管理・整理する

バケットリストを作成したユーザは、好きな表示形式でバケットリストを見返すことができる(図 5)。また、各バケットリストにカテゴリ別に整理したり(図 6)、実現するためのステップやメモを記述したりすることも出来る(図 7)。

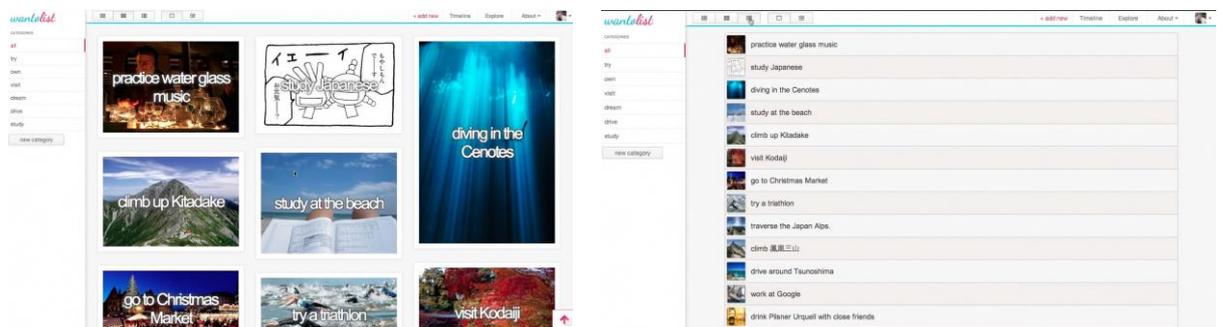


図 5 バケットリストをタイル形式 (左) やリスト形式 (右) で見返す

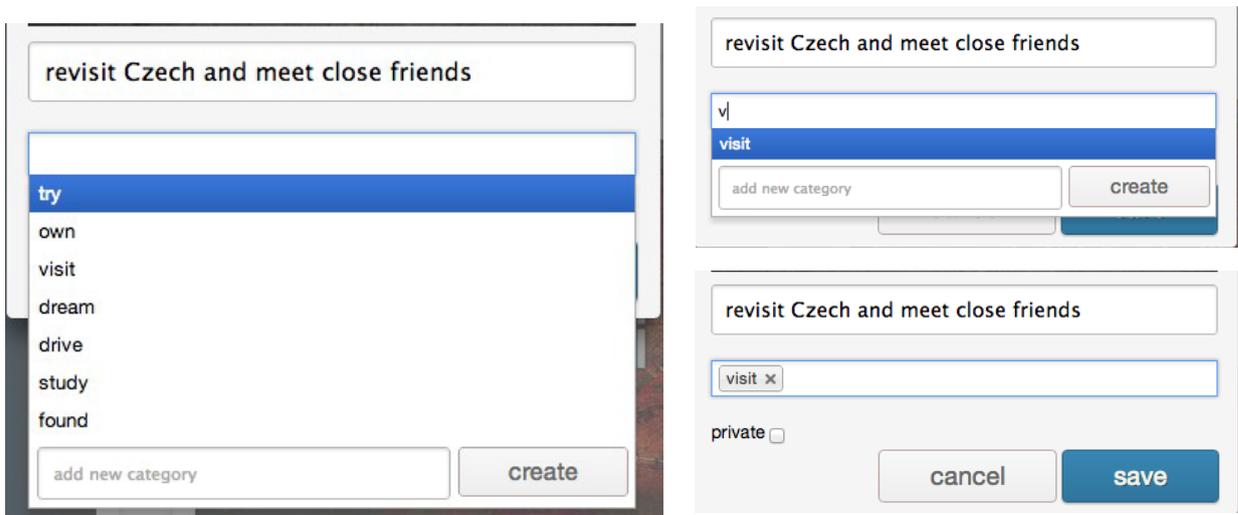


図 6 バケッリストをカテゴリで整理する

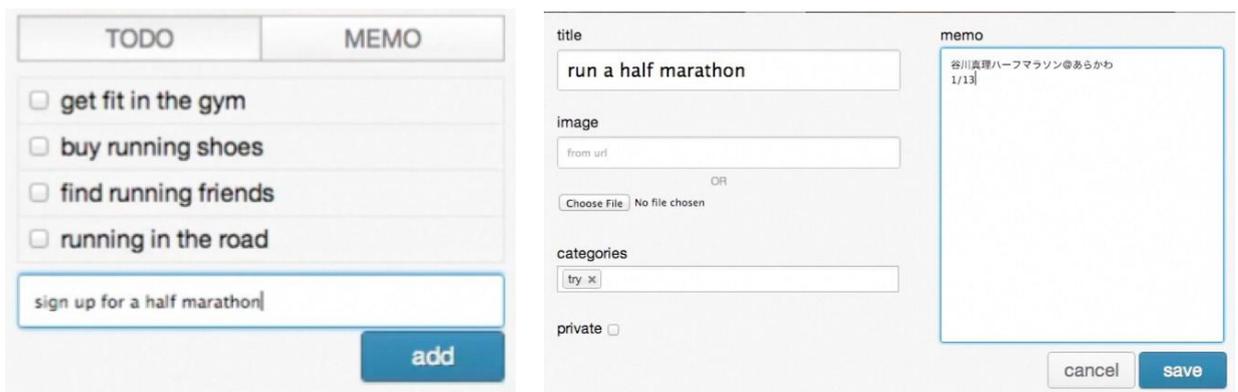


図 7 バケッリストに細かいステップを追加したり（左）メモを追加出来る（右）

### バケッリストを共有・再利用する

他にも、他のユーザがどんなバケッリストを作成・実現しているのかフォローすることができたり、他人のバケッリストを再利用して独自のバケッリストを作成したりすることもできる(図 8)。

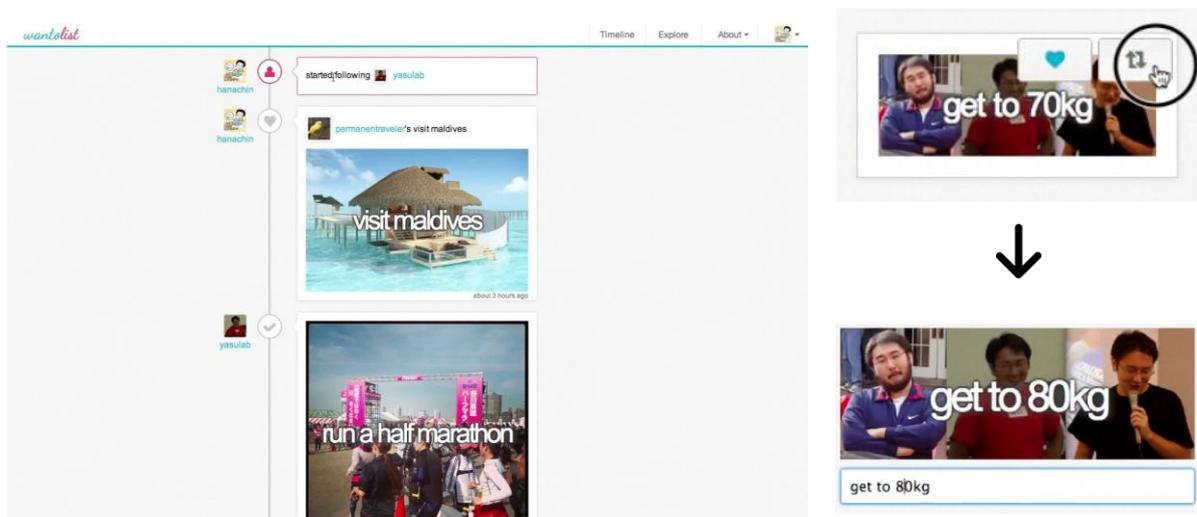


図 8 他のユーザの活動を見たり（左）バケツリストを再利用する（右）

## 10. プロジェクト評価

一見、既出他サービスにおいても類似部分が存在しているようにも見えるが、単純な ToDo List や、画像一覧型のサービスの延長ではなく、ユーザの未来の情報である“want(希望や欲求)”のみに特化し、その夢の実現サポートすることにフォーカスした、ユーザビリティが高くかつ視覚的なサービスを中心に実現している。未踏開発期間中に開発の指針とすべきテーマを再考し、あらためてユーザ視点でリッチかつ直感的なユーザエクスペリエンスを提供するサービスを実現する仕組みを構築したことを高く評価したい。

未踏開発期間中には開発における優先度の関係上、Wantolist のデータ活用基盤としての議論が後手に回ってしまったところが残念である。人々の強く生きた情報である want を集めるサービスの提供者側が、ユーザにどのような新たな驚きを提供できるのか、今後のサービス開発とデータ収集を通じてぜひビジネスモデルを含めて検討し、更なる発展へつながることを期待したい。

## 11. 今後の課題

本プロジェクトは現在、シリコンバレーにいる人々を主な対象として、プライベートβサービスを展開している。プライベートβサービスは約3ヶ月～6ヶ月実施し、その期間内に既存の問題点やユーザの需要を把握する予定である。その後、問題点を修正したり、ユーザと対話しながら方向性を微調整したりした後、パブリックβ版を公開し、世界中の人々が自由に Wantolist を使えるようにする予定となっている。